

中 期 計 画

学 校 法 人 村 上 学 園

東 大 阪 大 学
東大阪大学短期大学部
東大阪大学敬愛高等学校
東大阪大学柏原高等学校
東大阪大学附属幼稚園

学校法人村上学園 中期計画

【1】中期計画骨子

現在の日本社会は新型コロナウイルス感染症などの諸課題による急激な変化により様々なリスクに直面している。学園の教育環境もコロナ禍により大きく影響を受けることとなった。この状況は今後もまだ続く恐れがあり、これからは感染対策を実施しながら、学校教育の在り方を変革していくことが必要不可欠となる。

また、今後、少子高齢化、グローバル化、情報通信技術の進展など環境の変化が大きく予測困難な時代を向かえていく。

このような状況の中、学園として「国際交流」「ICT教育の充実」「地域等との連携」を積極的に推進するために従来からの「国際交流センター」に加え新たに「経営企画室」及び「連携推進室」を設置し学園全体がより発展し、安定した学園財政及び運営基盤を構築していく。そのために大学・短期大学部・両高等学校・幼稚園が連携をより一層緊密化し一丸となって邁進できる将来ビジョンを示し、実現のために強みを活かした戦略計画を骨格とする中期計画を策定する。

【2】財政計画概要

- (1) 学校法人は全体として安定した財政運営を行うものであるが、各学校園が財政的自立を図ることは財政規律を維持した学校運営の観点から重要であり、予算を編成するにあたり各学校園において収支安定を目指す。
- (2) 収入の増加については、学生生徒園児の募集定員確保が最も重要ではあるが、その他、補助金制度など、国や大阪府、東大阪市の施策や改革の動向を始め私学を取り巻く環境について十分に把握する。また、寄付金事業を通して教育施設・設備の充実を推進し、資産運用についても効率的かつ安全な運用を実施していく。
- (3) ICT教育などの情報環境整備や老朽化や更新などの施設設備計画に基づき、教育改革の着実な実施のための重点的経費の計上と、その他の支出については必要最小限の経費の見積りによる積算により支出管理を行う。
- (4) 単年度ごとの堅実な財政運営を基調とした予算編成を行う必要から、この中期財政計画は、その実施を基本姿勢としながらも、将来の予算編成を拘束するものではなく必要に応じて見直す。
- (5) 事業活動収支において収支均衡にすることが財政健全化にとって重要であり、さらには収入超過へ転じることが重点目標である。また、将来の安定した学園運営につなげるためには運用資産の増加が必須となる。

東大阪大学・東大阪大学短期大学部

第1期中期計画（2015年度から2019年度）では「大学改革プロジェクト」を編成し、「入学者受け入れ対策」「就職充実対策」「学科、組織対策」に分かれ改革検討を重ねてきた。特に、第1期においては主に組織づくりに力を入れ、学内運営組織を定着させてきた。第2期（2020年度から2024年度）は建学の精神に基づき、本学の社会的使命、目指す学生像の実現のため実践、運営していく段階と考え、引き続き大学改革プロジェクトを中心に運営し、学園内組織を中心に連携を図りつつ教育実践をしてきた。

第3期中期計画であるが、学園全体の中期計画策定に伴い、大学は、第2期中期計画（2020年度から2024年度）の途中であるが、2022年度までの第2期中期計画を一つの区切りとして評価、反省をし、その上で、新たに第3期中期計画を策定する。

<第3期中期計画策定にあたり>

本学のような小規模大学は、学生数の確実な確保、さらに定員増を検討しなければ、収支バランスの安定が図れない。したがって、まず、学生数の確保に努め、一方で教育環境を整え、大学及び短期大学部の改組を検討していく必要があると考えている。

<大学の目指すビジョン>

1. 「21世紀の社会を支え活躍できる人材の育成」
2. 「自らの資質を向上させ、社会的、職業的自立を目指す人材の育成」
3. 「地域に根差した大学として、地域と繋がり貢献できる大学を目指す」
4. 「世界の人たち、地域の人たちとつながり社会で活躍できる人材の育成」

○大学の使命

社会人としての基礎学力を修得し、こども学の専門性を身に付け、子どもの健やかな幸せを願い、世界の人たちと共に未来を切り拓く以下のような人材の育成を目指す

1. 社会人としての基礎学力、社会性と専門性を身に付けた感性豊かな人材
2. グローバルな視野で社会を支え、世界の人たちと共に活躍できる人材
3. 子どもの視点で「こども」を追究し、子ども社会を支える人材

○短期大学部の使命

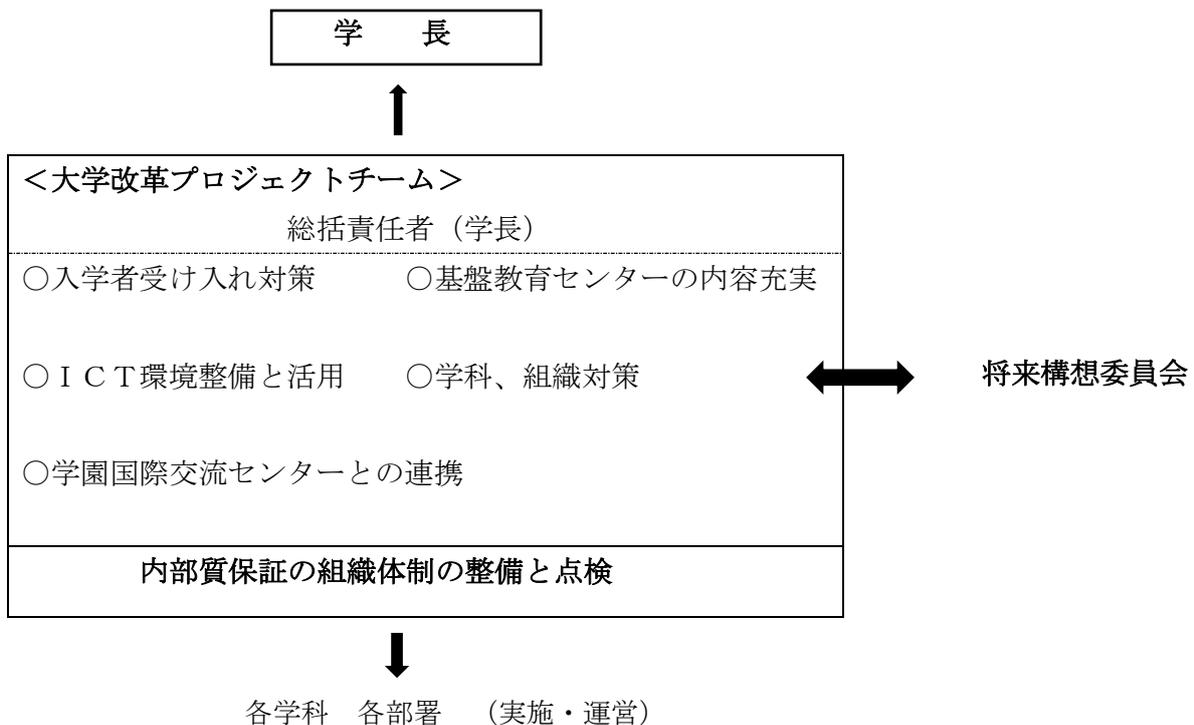
社会人としての基礎学力を修得し、専門的実践力を身に付け、地域の人たちと共に未来を切り拓く以下のような人材の育成を目指す

1. 職業人としての基礎学力と実践力を磨いた人間性豊かな人材
2. 実践力を社会で生かし社会貢献できる人材
3. 地域を愛し、地域を支え地域で活躍できる人材

I 大学改革プロジェクト

多様なニーズに応える入試方法を検討する。特に、定員を超える受験生を確保する策の一つとして留学生、社会人学生等、多様な学生の受け入れ強化を図る。

基盤教育センターを中心に基礎学力向上に努め、授業や就職対策へ繋ぐ仕組みを構築する。一人ひとりの学生の実態に即した教育を目指し、質の高い高等教育の実践を模索し、社会に発信する。学科、組織対策では、常に社会のニーズに合った特色ある大学運営計画を策定し即実践できる体制作りを行う。ICT環境整備と活用では、コロナ禍で、リモート授業や学生への発信が定着し活用が高まってきた。さらに内容の充実を検討する。学園国際交流センターとの連携強化を図り、留学生入試、留学生の生活指導等の充実を図る。内部質保証の組織体制を整備し、IR委員会と連携し、自己点検・評価を基に改善向上を図る。



II 重点方針

1. 入学者受け入れ対策

学園の収支バランスを考える上で、学生数を増やすことが大前提である。したがって、各学科の入学定員を満たすことが最重点課題である。

- ①18歳人口の減少、短期大学部への入学希望者の減少の対策として、留学生、社会人の受け入れを強化する。
- ②学科の目指す学生像を基に、各学科の特色を具体的に示し各学科の特色に応じた

入試方法の工夫をする。受験者数だけを意識するのではなく、退学者が多いことも分析し、学生の生活指導や学習困難な課題を克服できるような指導を各学科で実践する。「大学で学ぶ意義や心構え」をオープンキャンパスや募集活動でアピールし、学ぶ意欲のある受験生、勉学意欲の高い受験生の確保に努める。

2. 基盤教育センター

基礎学力向上に全学で取り組む体制作りを充実させ、全教職員で取り組む。基盤教育センターのメンバーで内容を検討し学修効果を上げる工夫をする。さらに「社会人として立派に生き抜く人間」に育てることを目指し、その道筋を明確にする。「基礎学力向上のためのドリル」を実施し、エビデンスを基に、各学科で詳細に分析し、学生の実態把握と学力補充体制を検討し学習効果が得られるようにする。

3. ICT環境の整備と活用

社会が目まぐるしく変化する中、「ICT環境を生かした教育」が重要課題であり、本学も後れを取らないように環境整備と、それを生かした教育内容を検討する。まず、以下のことを柱に検討する。

- ① 大規模災害や感染症が蔓延した場合の、登校困難な状況においても、教育活動の継続が可能とするための環境整備。
- ② 在学生向け（兼高校生向け）や地域世帯向けのオンラインコンテンツの充実。
 - ・在学生のスマートフォンやPCを学びのツールにする。
 - ・オープンキャンパスやフェスタ等の参加者を継続的にアクセスできるための仕掛けづくり。
 - ・各学部学科の専門知識を、地域社会を支えるためのコンテンツ（育児・教育・食生活・介護）として発信。
- ③ 学生の情報共有、入試広報の情報共有、担任が把握している情報の共有、学生自身の振り返り等を一元化し、学内の教育活動、広報活動を効率的に活性化する。

4. 学科・組織対策

- ① 留学生が増加してきた中で、学園国際交流センターと各学科（特に介護福祉学科）の連携体制を強化し、特に留学生の生活管理と学修管理をきめ細かく行う仕組みを構築し実践する。
- ② 「アジアこども学科」の学科名称変更をしたことを生かし「国際教養こども学科」の特色や運営方針をさらに検討し、その特色をアピールする。特に、大学においては、学生数が増加気味であり、今後、両学科の定員増を検討する。
- ③ 2023年度は「大学こども学部開学20周年」である。この節目は、20年のあゆみと成果、未来に向かう発信等、社会に本学をアピールするチャンスと認識し、記念

行事等を行い、大学のさらなる発展を目指す。

- ④ 短期大学の各学科で、高校生のニーズを検討しそのニーズにふさわしいカリキュラム、定員数を検討する。教育内容を積極的に社会に発信する。
- ⑤ 施設設備の点検を行い、環境整備計画を作成し実現できるように検討を重ねる。

5. 地域に開かれた大学

大学が地域社会の中にある大学として、地域住民、地域関係部署、地域関係団体と連携するため積極的に内容を検討する。行事の企画を通じた教育活動をすすめて広報発信する。地元への就職も含め、東大阪市との連携強化に努める。

6. 国際交流センターとの連携強化

- ① 留学生募集の強化と、在学生（留学生）の学修面、生活面へのきめ細かな指導に努める。
- ② 国際交流センター職員との協働体制を構築し、留学生にとって戸惑うことなく学生生活を送れるようにする。

7. 内部質保証の組織体制の整備と点検の強化

IR委員会と連携し各部署の情報収集に努め、教育の質保証、大学運営の質保証に努める。

8. 施設設備計画

大学整備計画について、学園財政状況も踏まえ以下の点について検討する。

- ① 桃風寮、音楽等の改修、整備
- ② 各教室の情報機器の整備、更新
- ③ 1号館以外のトイレ改修、整備
- ④ 1, 4, 8, 9号館の外壁整備
- ⑤ 1号館の改修、整備（スロープ又はエレベーターの設置）
- ⑥ 1, 3号館の空調設備
- ⑦ 8号館大講義室の整備（机、カーペットの入れ替え）
- ⑧ クラブハウス（部室、シャワールーム設置）設置
- ⑨ ラーニングcommonsの整備

以上、第3期中期計画を策定し、「社会に見える大学」を目指し、全教職員が一丸となり、本学が目指す、学生を大事にした質の高い教育に取り組み学生確保に努める。

東大阪大学敬愛高等学校

1. 目指す学校像

- 将来像・・・主体的な学びを通し、自尊感情を高め、自己実現に導き社会に貢献できる力を養う学校にする。
- 教育目標・・・各コースの高い専門性の学びを身に付けるために、基礎学力の向上、専門知識・専門技能、そして、コミュニケーション能力を育成する。また、生徒会活動・クラブ活動を活性化し、互いに認めあう力・協調性・生きる力を養う。
- 具体例・・・本校の各コースを今まで以上に魅力のあるものに再構築し、多方面に認識してもらえる取り組みを進めることが重要である。また、そのコースにおいても比較的女子生徒に人気のコースが多く、「男子生徒の獲得のための取り組み」を実施するとともに、男子生徒をターゲットとした新しいコースの立ち上げにも着手したい。

学習面では、新学習指導要領に基づき「観点別学習状況の評価」の実施により、基礎学力の向上・確かな知識・技能の習得、主体的・対話的な能力を向上させ、ICTの活用も含め新しい時代に対応できる生徒の育成を目指す。また、クラブ活動への積極的な参加、校則の見直しにより、校則遵守とその緩和を目指し、メリハリのある学校生活を実現させる。

施設環境整備としては、老朽化が目立つ体育館整備、クラブハウス増設、グラウンド周辺の美化、倉庫改修を計画する。

2. 教育・ICT

(1) 観点別学習状況の評価

- ・授業が従来とは異なるため、各教科で検討、研究し実践するが、フィードバックを確実にいき、生徒が主体的に取り組める最善策を構築する。

(2) iPad を用いた授業展開の充実

- ・現在活用しているソフト（クラッシー・メタモジ・クラスルーム）に加え、各教科に必要なアプリの導入。（費用対効果を考慮し検討）
- ・各教室のプロジェクター有効活用。

(3) メリハリのある学校生活

- ・クラブ活動への積極的な参加を促し、自主・自立の精神を高め、より楽しみのある学校生活の実現。
- ・校則を見直し校則遵守の徹底と緩和を実現させ、メリハリのある学校生活の実現。

(4) 総合的な探究の時間

- ・地域（近隣会社、学校等）との関係重視。ボランティア活動などを通じて、より

地域社会とつながりを深め貢献していく。

- ・地域の産業との交流を目指す。(建築、住居デザイン等)
- ・1年生からキャリア(進路)教育を導入し、3年間の計画的な進路指導を実施。

(5) 教職員の仕事量軽減・時間の有効活用

- ・教職員の合理的な働き方を実行するために、各分掌の仕事を精査し時間の有効活用を図る。

3. 国際交流センターとの連携

(1) 留学生が安定した学校生活・寮生活が送れるように連携を図る。

- ・関係者(報告、連絡、相談)会議を実施する。
- ・日々の連絡を密にする。

(2) 進路指導の充実

- ・国際交流センターと連携をとり、教職員が留学生入試のみならず、幅広い入試に対応できる進路指導を実施する。

4. コース再構築

(1) 総合進学コース

- ・敬愛講座、敬愛ゼミの充実(「モノづくり」を通して地域との連携を図る)

(2) こども教育コース

- ・保育の基礎から、専門的な分野にも指導の領域を広げる。
- ・大学・附属幼稚園と連携を取り、その学びを実習に生かせるようなカリキュラムを構成する。

(3) 調理製菓コース

- ・調理製菓の技術の習得と、外部の団体とのコラボレーションなどを実施し社会で通用する生徒の育成を目指す。

(4) ファッション創造コース

- ・ファッション関連の学校で1番を目指す。学内ファッションショーを中心に、外部との連携を実施していく。

(5) 新しいコースの立ち上げ

- ・東大阪市を中心とした本校の基盤となる地域の企業との連携ができるコースの検討を行い実施する。

5. 募集・広報活動

(1) 募集活動

- ・中学校訪問でコースの再構築する内容と令和4年度から新設したファッション創造コースの認知度を高める。

- ・現在の塾訪問体制を見直す。訪問の中心となる担当者を固定し、塾への訪問回数を増やすとともに、年間を通じて訪問できる体制を整え実施する。

(2) 広報活動

- ・オープンスクールや入試説明会のアンケートをもとに、受験生・保護者のニーズに合った内容を精査し実行に移す。
- ・ホームページ・SNS を重要なツールとしてとらえ、頻繁に更新し、行事や日々の生徒の情報などを発信する。

5. 施設環境整備

東大阪大学敬愛高等学校の授業・課外活動を更に活発に運営するために以下の施設設備を整備する。

- ・体育館の整備
- ・グラウンド周辺の増・改築（柵を高く）
- ・クラブハウス増設
- ・グラウンド倉庫改修
- ・記念館の外壁補修

東大阪大学柏原高等学校

1. 目指す学校像

- 中学生やその保護者に行ってみたい・行かせてみたいと興味を持ってもらえる学校
- 教育活動全般を通じて、自尊感情（自己肯定感や有用感）が育てられる学校
- 自分らしさを発見・追求し、自分の進路を切り拓いていける学校
- とことん生徒と向き合い、面倒見の良い教職員集団が形成される学校
- 生徒にとっても、保護者にとっても「来てよかった」と思える学校

2. 全ての生徒が夢中になって取り組める授業づくり、行事づくり

○ICT 教育の充実

- ・一人1台の iPad を活用して、個別最適な学びと協働的な学びを実現し、達成感のある夢中になって取り組める授業を目指す。
- ・毎時間継続して iPad を活用するために、現在使用している学習アプリ（モノグサ、スタディサプリ）に加え、各教科で必要なアプリを検討していく。
- ・情報モラル教育を徹底する。
- ・すべての教科で iPad を活用した公開授業や研究授業を行い、教職員の資質向上に努める。

○新学習指導要領実施に伴い、主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を目指す。

- ・ iPad やペア学習・グループ学習の活用
- ・ 自分の考えをまとめ、発表・表現する力の育成
- ・ 自尊感情を育てたり、達成感が得られたりする授業
- ・ 観点別評価と指導の一体化

○生徒会活動や委員会活動を活性化させ、達成感や自己有用感が得られる楽しい行事を創造する。

3. 国際交流事業の充実

○国際交流センターとの連携を強化するとともに、センターと学校との役割分担を明確にしていく。

○有名大学進学に向けた学力保障と進学実績を充実させる。

○日本人と留学生の相互交流を基盤とした多文化共生教育を推進する。

4. コース再構築

○新コース「キャリアスポーツコース」の立ち上げ

・「楽しく学ぶ」をモットーに、クラブに縛られずに新たなジャンルの幅広いスポーツに挑戦しながら、関連の資格を取得し、進学や就職及び地域の指導者をめざすコースを新設する。

・従来の「スポーツコース」は、より特色を強め、「キャリアスポーツ」との差別化を図るため「アスリートコース」に名称変更する。

○各コースの特色を極め、より「自分らしさ」を追求できるようにする。

○改革推進部を中心に、オンライン授業の活用や男女共学等、今後の新たな展開を検討する。

5. 募集・広報活動

○広報の主体を紙ベースから SNS 中心に切り替えていく。

・ホームページをリニューアルし、学校生活の動画を多く取り入れ、本校の特色や楽しさが伝わるようにする。また各クラブのページを作り、練習風景や戦績等を掲載し、各コースや学年の活動、進路情報などタイムリーに広報していく。

・インターネット出願とイベント予約システムを導入することで、保護者の手続きの選択の幅を広げると共に、得られたデータを生徒募集活動に活用する。また作業効率の向上を目指す。

○各コースの生徒獲得目標値を明確にし、目標達成に必要な募集活動及び教育内容を創造していく。

○オープンスクールや学校説明会は本校をアピールする最大の機会と捉え、前例にと
られない思い切った企画を実行していく。

6. 施設設備の改修・修繕計画

○下記の項目について、順次改修・修繕を行う。

- ・スポーツホール LED 改修
- ・スポーツホール空調機更新
- ・敬愛館風呂・トイレ改修（利用状況も含め要検討）
- ・パソコン教室、図書館整備

東大阪大学附属幼稚園

1. 「萬物感謝 質実勤労 自他敬愛」の学園訓に基づき、私学助成園として幼稚園運営を続ける。
2. 本園の教育方針に則り、質の高い幼児教育を提供できる幼稚園として努力を続ける。
本園の教育方針 ○豊かな感性を育てる
○知的能動性を育てる
○子どもの表現力を育てる
○社会性を育てる
○体力をつけ、持久力、集中力を育てる
3. 毎年3年保育90名以上の園児を獲得できるよう、園全体で入園広報に努める。
 - ・今までの幼稚園とのつながりを大事にして園児獲得につなげる。
 - ・広報用パンフレット、ブログ、インスタグラムなどを有効活用する。
4. 今後も多様な体験、経験ができる幼稚園として保育を続けていく。
 - ・キッズファームなど恵まれた環境を生かした教育活動を継続していく。
5. 人材育成、人材確保に向けて力を注ぐ。
 - ・経験豊かな教職員の定年退職に伴い、経験の浅い教員の育成と有能な新規教職員の採用を進める。
6. 保護者の願いに応える園運営の継続
 - ・保護者に愛され、園児の笑顔がいっぱいみられる幼稚園

- ・働くご家庭を応援しますプランに基づく預かり保育の継続
 - ・課外保育の充実など現在取り組んでいるプランを継承
 - ・教職員総体で園児の成長を助長する。
7. 危機管理マニュアルを基本に、園児の安全、健康を最優先に行事や活動続ける。
 - ・今後も新型コロナウイルス感染症の感染防止に努める。
 - ・安全に配慮した実施計画のもと、教育活動を続けていく。
 8. 園舎の補修、リニューアル工事を計画的に進める。
屋上防水、外壁塗装、園庭の整備（大型遊具の補修・砂場の改修）保育室のリニューアルを優先課題とする。
 9. 事業活動収支において収入超過継続と若年層教職員の処遇改善を図る。